



## 自分なりに考えるくせをつける

校長 細川 靖雄

先日、私が買い物をした店舗では、買い物客自身で会計をおこなうセルフレジでした。そのシステムに少し戸惑い、不慣れな私はその一連の作業に時間が掛かりはしましたが、無事に支払いを終えることができました。確実にこの流れは進んでいるようです。

今まで、人がしていた仕事は、ロボットやAI（人工知能）が代わっていきだろろうとされています。

その一方、ロボットやAIが人の代わりににくい仕事の特徴には、複雑なコミュニケーションが必要なことやクリエイティブさが求められること等、これから先のことである未来のことや、ゼロから生み出すことについてはまだ苦手なようです。

学校では、これからの時代に備え、自由にアイデアを発想したり、思い込みを打ち破るために新しいことに挑戦したりする取り組みの機会を設けていきます。

それには、「他のみんなと同じ」「誰かがこんなことを言っていたから」と決めつけて行動をストップさせてしまうのではなく、既存の枠組みにとらわれずに試行錯誤していく気構えが必要だと思えます。そのための訓練の一つとしては、自分で考えるくせをもつことだと思えます。

そのためには、

- ・いくつかの選択肢の中から自分自身で選ぶ
  - ・自分自身で「YESかNO」をはっきりと決める
  - ・選択し決断した際には、論理的に理由を考える（例；～と考えたからと話す。）
  - ・一つの視点だけではなく、他方からや多面的な立場から物事を考える  
（例；Aの立場では、～だと思うのだけれど、Bの立場では、～だと考える。）
  - ・わからないことをはっきりとさせて、それについて追求していく  
（例；〇〇については、もう少し調べてみなければ、はっきりとしたことは言えないのではないかと考える。）
- といった訓練をしていくことで、自分の意見をもつ力、分析する力、発想する力、問題を解決する力などが身に付けていくと考えます。

これらの力を身に付けさせるための機会として、各学年の発達段階に応じて調べる学習に取り組んでいます。子どもたちの発想を刺激する問いかけを繰り返し、子どもたちがそれぞれの問いの解を求める道のを楽しんで考えられるように仕向けていきます。

調べる学習の取組の中には、読書もあります。読書などを通して身に付く「読解力」「言語力」「書く力」「知識」などにより、考える力はさらに洗練されていくと考えます。

タブレットによるインターネット検索だけに頼らない学び方には、それなりの時間が必要となります。しかし、その分、記憶に強く残るものだと思います。